

# 第98期 年次報告書

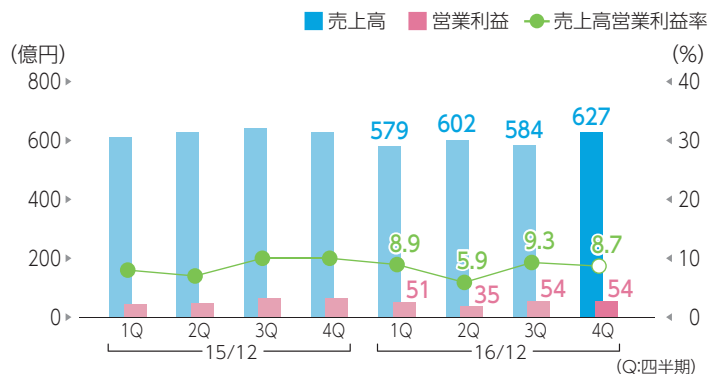
2016年1月1日～2016年12月31日



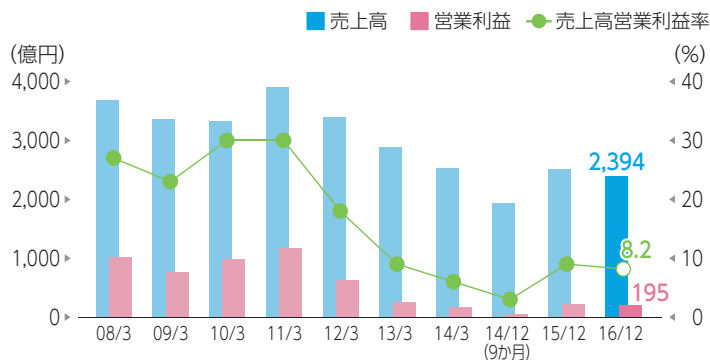
Art by Shinichiro Aikawa

## 連結財務ハイライト

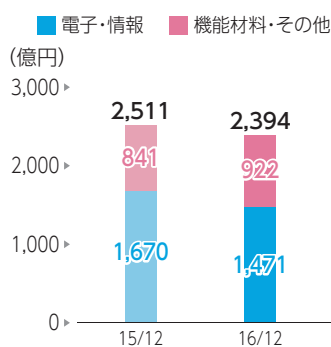
### 四半期 売上高・営業利益・売上高営業利益率



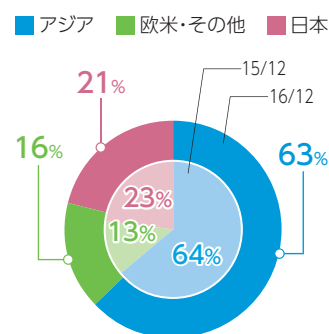
### 売上高・営業利益・売上高営業利益率



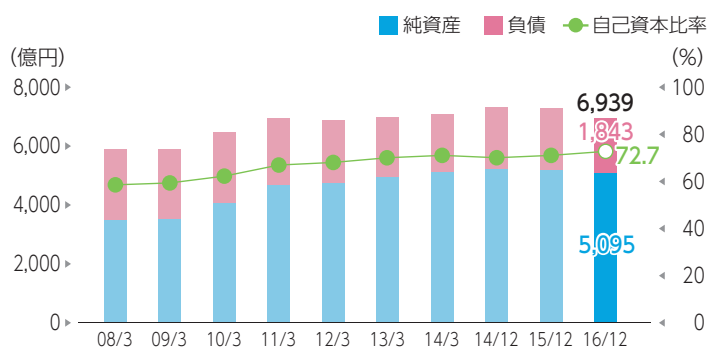
### 部門別売上高



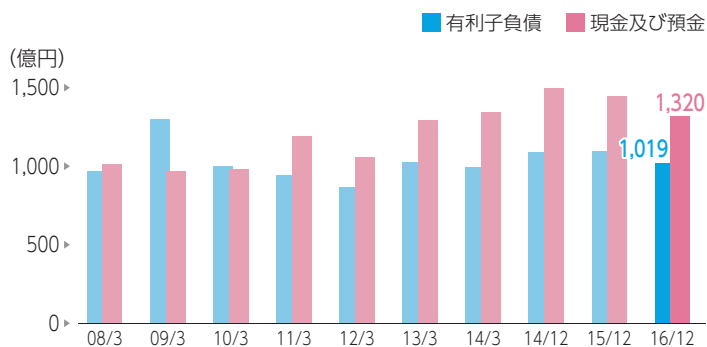
### 地域別売上比率



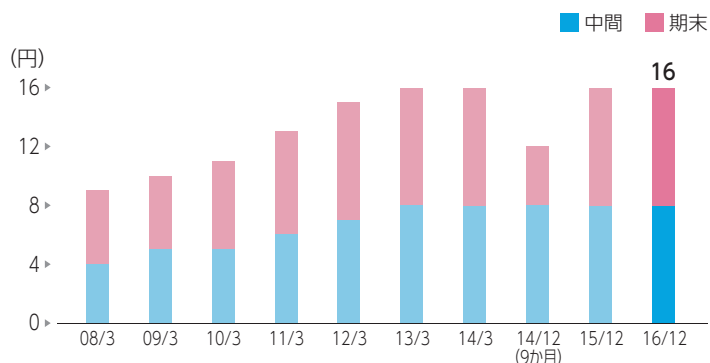
### 負債・純資産・自己資本比率



### 有利子負債・現金及び預金



### 1株当たり配当額の推移





## 成長への基盤づくりは着実に進展。 2017年度は中計の中間年度、 確実に歩みを進めます。

社長 松本 元春

### Q 2016年度の事業概況について ご報告願います。

**A** 販売面では、ガラスファイバが主力の自動車用エンジニアリングプラスチック強化用途で堅調に伸びましたが、売上の半分を占める液晶ディスプレイ用基板ガラスで出荷が微増にとどまり、価格が緩やかに下落したため、販売が減少しました。損益面では生産性改善や原燃料費の低減などのプラス要因はあったものの、売上高の減少や価格の下落、円高の影響を受けたことにより利益が押し下げられ、業績としては前期から減収減益という厳しい結果となりました。しかしながら、海外拠点の新規設備の稼働や設備投資の決定、M&Aなど、中期経営計画「EGP2018」の目標達成に向けた基盤固めの様々な取り組みが進展した年でした。

### Q 「EGP2018」初年度の進捗と 今後の展望はいかがですか。

**A** 「EGP2018」の4つの基本方針に沿って説明しますと、まず、①「**ディスプレイ**」関連事業の**収益力強化**ですが、今後の成長が期待できる中国事業を強化しました。廈門(アモイ)では、当社にとって中国で初となる薄型パネルディスプレイ(FPD)用ガラスの溶融・成形拠点を立ち上げ、生産・品質とも好調に推移しています。廈門では、2018年度の第1四半期に生産能力の増強を予定しています。一方、加工拠点としては、上海、広州に続き、昨夏、南京に新たな工場を稼働させました。また、福建省福清市において中国企業との加工合併事業の投資を決定し、今夏に立ち上げる予定です。これらにより、最大の需要地における一貫生産体制の充実を図りつつ拡販に努め、収益力とプレゼンスの向上につなげ

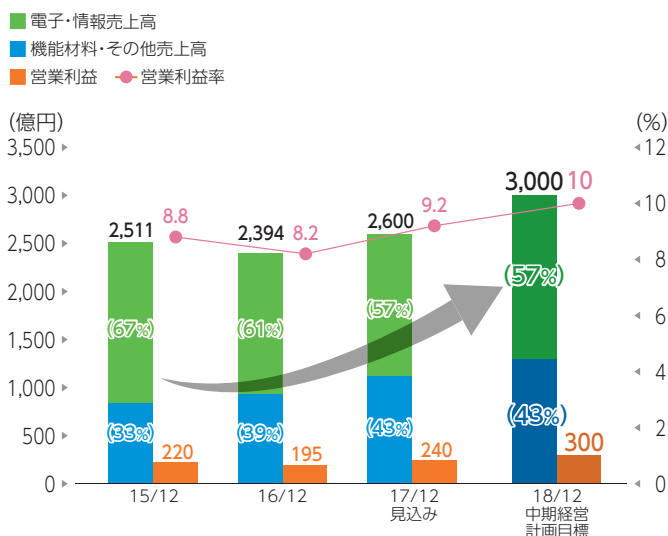
ていきます。コスト削減では、生産性向上や費用削減に加え、設備のライフ延長に取り組み、先々その成果が表れてくることを期待しています。

②「**機能材料、光・電子、医療・耐熱・建築**」関連事業の**拡大**に関しては、米国PPG社の欧州ガラス繊維事業を買収し、自動車用エンジニアリングプラスチック強化用途の拡大と同時に、風力発電用風車ブレード用途等への参入を果たすことができました。また、医薬用管ガラスにおいては、マレーシアで新設備を稼働させ、成長市場である中国での拡販に取り組みました。新製品関連では、次世代半導体パッケージの製造工程で使用される半導体用サポートガラスや、LED照明に使用される蛍光体ガラスの販売が伸びました。

③「**研究開発**」の**強化**では、いくつかの開発品で上市に向けた取り組みが進んでいます。特に期待しているのが、イメージセンサやLED等への採用が期待されるセラミックス封止用レーザーガラスフリットです。現在、半導体素子のセラミックスパッケージの封止には樹脂シールが使用されていますが、レーザーガラスフリットは樹脂に比べ耐熱性・強度・気密性に優れ、深紫外LEDや車載用の各種デバイスにおける信頼性向上や長寿命化に貢献します。パッケージのふた(リッド)や容器(キャビティ)についても当社製品を提案し、これらとセットでご使用いただくメリットをしっかりとPRし、販売に結びつけていきたいと思えます。

④「**積極投資**」では、通常の設定投資とは別に、約500億円の戦略的投資枠を設定しています。2016年度は、前述の欧州ガラス繊維事業の買収や量子ドット蛍光体の共同開発を目的としたNSマテリアルズ社への出資などを実施しました。現在も、新たなM&Aやアライアンスの実現に向けた取り組みが進行しています。

## 【中期経営計画「EGP2018」の進捗】



### Q 持続的な成長を目指すには人材の育成も重要です。

**A** そのとおりです。成長のためにはM&Aや協業、研究開発などで今後もストレッチした事業の取り組みが必要であり、人的リソースの充実が求められます。中長期の成長を見据えた新たなマンパワープランを策定し、計画的な人材採用に取り組んでいるところです。変化の時機ですので、社員には責任と権限を与「まずは、やってみる」という気概で間口の広い仕事を経験してもらい、個々の能力を高め全体的な戦力アップを図っています。一方、今日的課題でもある「働き方改革」については、単なる労働時間の削減にとどまらず、意思決定の迅速化、業務プロセスの見直しによる無駄の削減など、様々な角度から職場環境の改善に取り組み始めました。同時に、2015年末に法的に義務付けられたストレスチェックについても昨年調査を行い、その評価結果を社員にフィードバックしました。また、外部団体による従業員支援プログラム(EAP:Employee Assistance Program)も取り入れており、社員の心身の健康管理に役立ててまいります。

### Q ところで、CSR(企業の社会的責任)の取り組み状況はいかがですか。

**A** 当社では、「環境保全」、「地元貢献」、「障害者雇用」をCSRの重要なテーマに位置付けています。「環境保全」では、これまで工場内で発生する環境負荷物質を除去したり無害化することに重点を置いてきましたが、「発生」そのものを抑えるアプローチに重点を移し、生産設備の改善に取り組んでいます。あわせて、エネルギーの有効活用のためガラスの熔融温度を少しずつ下げてきました。これらにより、使用原料の削減、エネルギー消費の抑制、設備のライフ延長につなげていきます。「地元貢献」については、工場見学の受入れや出前授業、ボランティア活動などを地域のニーズに合わせて実施しています。「障害者雇用」は、法定雇用率(2.0%)を大きく上回る水準(3.6%)にあるものの、近年頭打ちの状況が続いていますので、職域の拡大に努め、雇用率の上昇につなげていきたいと考えています。

### Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

**A** 2017年度は、昨年来の諸施策を着実に推進し、中期経営計画「EGP2018」の実現に向けて確実に歩みを進めます。

株主様への還元については、2016年度は1株当たりの期末配当を8円とし、年間では中間配当の8円を合わせ16円とさせていただきます。2017年度についても1株当たり年間16円を予定しておりますが(※)、業績の進捗によっては増配も検討していきたいと思っておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(※) 2017年7月1日を効力発生日として、普通株式5株につき1株の割合で併合します。この株式併合により1株当たりの配当は中間8円、期末40円となる予定ですが、配当金額への実質的な影響はありません。

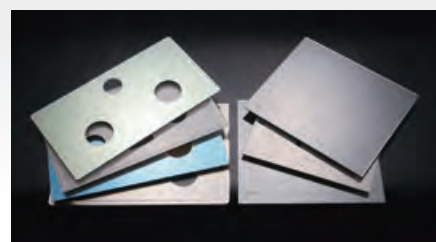
## TOPICS

### 調理器トッププレート用結晶化ガラスの新ブランド、StellaShine™(ステラシャイン)立ち上げ

StellaShine™は、「星」と「輝き」を組み合わせた造語で、きらきらと輝く高品質なガラストッププレートをイメージしています。明るく、親しみやすい名称で製品ブランドの浸透を図り、さらなる拡販につなげていきます。

- 対象製品 IHやガスコンロなどの調理器のガラストッププレート
- 名称の由来 Stella(星:イタリア語)+Shine(輝き:英語)

■ ロゴデザイン **StellaShine™**



StellaShine™ 製品写真

2016年10月1日付で、正式にPPG社の欧州ガラスファイバ拠点(英国およびオランダ)が当社グループの傘下に入り、Electric Glass Fiber UK, Ltd.、Electric Glass Fiber NL, B.V.(以下EGFと総称)として、新たなスタートを切りました。

10月3日から4日にかけて、両国で記念式典が挙行政され、当社から松本社長らが出席しました。当社トップからの会社紹介プレゼンテーションやウェルカムメッセージにより、EGF従業員のモチベーションが高められました。また、EGF従業員からも投資計画や今後の展望について積極的な質問があり、皆さんの熱意と期待が感じられました。式典後は、工場見学や懇親会が開催され、新拠点やそこで働く従業員についてより一層理解を深め、コミュニケーションを図りました。

今後、日本、マレーシア、欧州の三極からグローバルにガラスファイバを安定供給できるよう生産供給体制の強化を進めていきます。また、製品ラインナップの充実や技術面のシナジー効果などにより、事業のさらなる拡大を目指していきます。



松本社長

〈新拠点の概要〉

名 称	Electric Glass Fiber UK, Ltd.	Electric Glass Fiber NL, B.V.
所 在 地	英国Wigan市	オランダHoogezand市
主要製品	樹脂強化用ロービング	樹脂強化用チョップドストランド
主な用途	風力発電用風車ブレード、自動車部品用複合材料	自動車部品用複合材料



TOPICS

中国でのFPD用板ガラスの加工合併事業

当社は、東旭光電科技及びその子会社との福建省福清市における加工合併事業に合意し、2017年第2四半期の稼働開始に向けて工場建設を進めています。

ここで加工されたガラス基板は、主に、中国FPDメーカーの最大手である京東方科技集団(BOE)の福州新工場向けに供給されます。当社にとって、上海、広州、南京に次ぐ中国第4の加工拠点であり、昨年稼働した廈門の溶融・成形拠点とともに、成長著しい中国市場での需要拡大に対応していきます。

〈事業の概要〉

名 称	福州旭福光電科技有限公司
所 在 地	中華人民共和国福建省福清市
出 資 比 率	当社：40% 東旭光電科技：10% 福州東旭光電科技：50%
事 業 内 容	G8.5級FPD用板ガラスの加工及び販売
総 投 資 額	約7億人民元 (当社は40%負担)
生産開始時期	2017年6月頃 (予定)

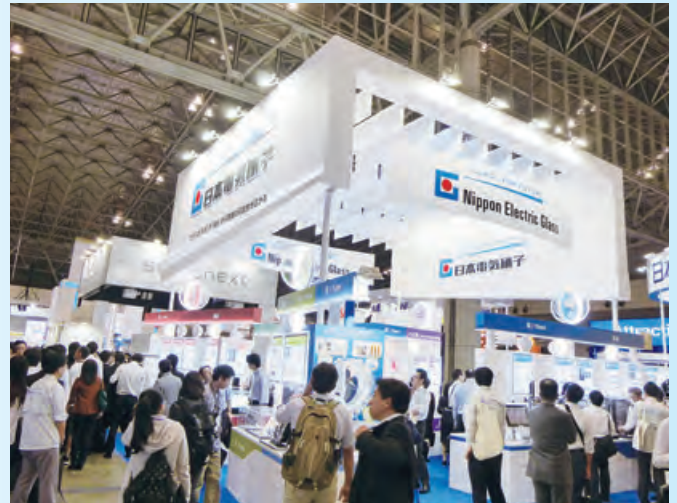
## CEATEC JAPAN 2016

2016年10月4日～7日 千葉・幕張メッセ

CEATEC JAPAN 2016に出展し、ガラスの「形状」と「機能」をテーマにそこから広がる無限の可能性を提案しました。「形状」では『板』、『管』、『粉』、『糸』、「機能」では『光』と『熱』にフォーカスを当て、これらにまつわる様々な製品を展示しました。この他、『レーザーガラスフリットによるセラミックス封止技術』のコーナーを設け、電子デバイスの新たな封止技術の可能性を紹介しました。ステージプレゼンテーションでは、下記4製品を取り上げ、模型を使いながら、製品の優れた特性をわかりやすく説明しました。

- ① 従来品より熱膨張係数が低く、セラミックスへの濡れ性を向上させた**レーザーガラスフリット**
- ② 様々な熱膨張係数を持ち、高い平坦性を兼ね備えた**半導体用サポートガラス**
- ③ 超薄板ガラスと樹脂板の**ハイブリッド製品<Lamion®>**
- ④ クルマのスマートミラーに使われる**ハーフミラー(ガラスに薄膜を形成したもの)**

多くの来場者にプレゼンテーションをご覧いただき、製品についての理解を深めていただくことができました。

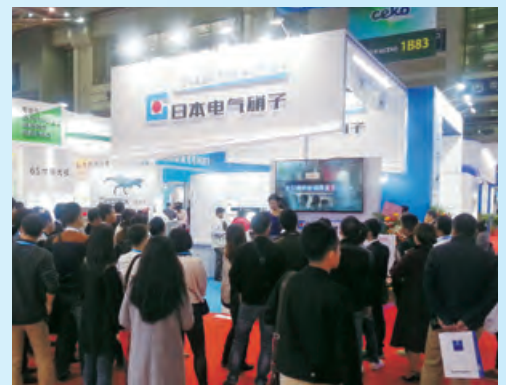


## C-TOUCH & DISPLAY SHENZHEN 2016

2016年11月24日～26日 中国・深圳

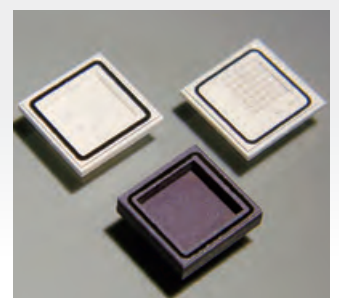
知名度向上と技術力アピールを目的として、中国・深圳で開催されたディスプレイ関連の展示会「C-TOUCH & DISPLAY SHENZHEN 2016」に初めて出展しました。

化学強化専用ガラス<Dinorex®>にぎらつき・反射・指紋付着を防止するコーティングを施した車載用カバーガラスの模型や、超薄板ガラス<G-Leaf®>のタッチパネルへの応用例などを展示しました。プレゼンテーションは、常に人だかりができるほどの盛況ぶりでした。



### セラミックス封止用レーザーガラスフリットの開発

当社は、従来品より熱膨張係数が低く、セラミックスへの濡れ性(部材表面に均質に広がり強固に固着する性質)を向上させたレーザーガラスフリットを開発しました。殺菌装置などでの用途拡大が期待される深紫外LEDでは、パッケージの封止材料を、樹脂からレーザーガラスフリットに置き換えることで、品質の信頼性向上や長寿命化に貢献できます。また、過酷な環境での長期信頼性が必要な車載用セラミックスパッケージや2枚のガラス基板で発光素子を封止する有機ELに使用すれば、レーザー封止工程のタクトタイム短縮や歩留まり向上が期待できます。



レーザーガラスフリットの使用例

## 会社概要

### 会社概要 (2016年12月31日現在)

創 立 1949年12月1日  
商 号 日本電気硝子株式会社  
本 社 滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号  
TEL 077(537)1700(代表)  
FAX 077(534)4967  
資 本 金 32,155百万円  
従 業 員 数 5,849名(連結)  
営 業 所 大阪・東京  
事 業 場 大津・滋賀高月・能登川  
精密ガラス加工センター  
(若狭上中は2016年12月に閉鎖)  
主要事業内容 特殊ガラス製品の製造・販売  
連結子会社 国内12社  
海外14社(マレーシア・韓国・中国・欧州等)  
ホームページアドレス <http://www.neg.co.jp/>

### 取締役および監査役／執行役員 (2017年3月30日現在)

取締役会長 (代表取締役)	有 岡 雅 行	社長執行役員	松 本 元 春
社 長 (代表取締役)	松 本 元 春	専務執行役員	竹 内 宏 和
取 締 役	竹 内 宏 和 筈 本 雅 博 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹 小 田 野 純 丸 ※1 森 修 一 ※1	常務執行役員	筈 本 雅 博 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹
常勤監査役	来 住 富治夫 應 治 雅 彦	執行役員	大 浴 成 一 後 藤 茂 正 金 井 敏 祐 前 中 祐 輔 岸 本 暁 生 中 村 憲 秀 竹 内 清 邦 中 川 邦 広 野 村 博 明 久 保 正 也 松 宮 晴 樹 加 埜 智 典 角 見 昌 昭 森 井 守 守
監 査 役	石 井 和 也 ※2 木 村 圭 二 郎 ※2		

※1 社外取締役  
※2 社外監査役

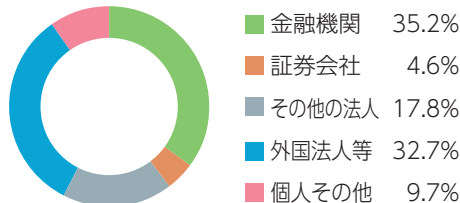
## 株式の状況

(2016年12月31日現在)

### 株式に関する事項

発行可能株式総数 1,200,000,000株  
発行済株式の総数 497,616,234株  
単元株式数 1,000株  
株主数 12,467名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ニプロ株式会社	68,335	13.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,708	7.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	32,290	6.5
THE BANK OF NEW YORK 133524	11,893	2.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	10,687	2.1
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	8,551	1.7
株式会社滋賀銀行	8,089	1.6
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	6,859	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	6,088	1.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	5,854	1.2

## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 毎年3月  
基準日 定時株主総会関係・期末配当金支払関係  
毎年12月31日  
中間配当金支払関係  
毎年6月30日  
上場証券取引所 東京(市場第一部)  
株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-782-031  
(インターネットURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
公告の方法 電子公告(<http://www.neg.co.jp/>)  
ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

### 株式に関するお問い合わせ先

内容	お問い合わせ先
支払期間経過後の配当金について	三井住友信託銀行(株) ☎0120-782-031
特別口座に関する事項(※1) (特別口座から一般口座への振替請求等)	
氏名・住所等の変更	口座を開設されている証券会社等 *口座を開設されていない方は 上記三井住友信託銀行(株)
配当金の受領方法(振込先等)の指定	
単元未満株式の買取・買増請求(※2)	

※1 特別口座のまま売買等を行うことはできず、一般口座への振替が必要で。

※2 当社での買取りまたは1単元(1,000株)に不足する数の株式を当社から買増することができます。  
なお、当社での手続きに係る費用は無料です。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。